

主要病害の抵抗性を集積し、高温・多湿な条件でも
安定栽培が可能な、てんさい新品種

北海みつぼし^{★★}

「北海みつぼし」は、黒根病、褐斑病、そう根病の主要3病害に対する複合抵抗性を集積した品種です。このため、病害の発生による糖量の減少を回避でき、高温・多湿な条件においても安定栽培が可能です。

育成期間／平成18年 ▶ 平成23年

品種の特徴

- これまでの普及品種にみられない黒根病抵抗性を有します。
- 褐斑病、そう根病も含めて、高い複合病害抵抗性を示します。
- スウェーデンのシンジェンタ社との国際共同研究により、育成しました。

主要病害の抵抗性を集積し、高温・多湿な条件でも安定栽培が可能な、てんさい新品種

北海みつぼし

北海道のてんさいは、近年、不作が続いています。平成22年のように夏期が高温・多湿な気象条件では、黒根病、褐斑病やそう根病が発生し、深刻な収量低下を招きますが、現在普及している品種の大半はそれら3病害全てに対する病害抵抗性は持たず、病害発生への対応が難しいのが実情です。

そこで、北海道農業研究センターが保有する病害抵抗性の遺伝資源を活用し、主要3病害に対する抵抗性に優れ、高温・多湿な条件でも、糖量の減収が少なく、安定栽培が可能な品種を開発しました。



北の大地で生産される「てんさい」のキホンを知ろう!

●砂糖の原料になる作物です。

製糖には根の部分を使い、てんさい1kgあたり約170gの砂糖ができます。英語でサトウキビが「シュガーケーン」と呼ばれるのに対し、てんさいは「シュガービート」と呼ばれます。

●北海道とてんさいの関係

明治4年、北海道開拓使の札幌官園で栽培試作されたのが北海道のてんさいの始まり。当初の作付けは失敗に終わりましたが、栽培技術向上や品種改良の努力を重ね、北海道に適した作物として普及してきました。現在は北海道の農業を支える作物のひとつとして全道で栽培され、北海道のてんさいは砂糖国内消費量の25%を占めています。



品種の特徴



褐斑病抵抗性“強”
北海みつぼし



褐斑病抵抗性“弱”
の品種

- これまでの普及品種には見られない黒根病抵抗性“強”であり、褐斑病およびそう根病に対しても“強”と高い複合病害抵抗性を示します。
- 高温、高湿な条件でも、黒根病、褐斑病やそう根病の発生を低く抑えることができます。

品種名	根重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖量 (kg/10a)	褐斑病抵抗性	黒根病抵抗性	そう根病抵抗性	根腐病抵抗性	抽苔耐性
北海みつぼし	7.42	15.88	1,178	強	強	強	中	やや強
かちまる	7.42	15.95	1,186	弱	やや強	—	やや弱	強
レミエル	6.96	16.24	1,133	弱	中	—	やや弱	強
リッカ	7.79	16.02	1,248	やや強	中	強	やや弱	強

注)「かちまる」、「レミエル」、「リッカ」は作付面積上位3品種(平成24年)

栽培上の注意点

- 抽苔発生が多くなる場合があるため、栽培にあたっては早期播種や育苗中の過度の低温による順化处理は避け、抽苔発生の懸念の少ない道央、道南、道北、十勝および網走内陸に作付する必要があります。

種子の入手方法

- 最寄りのJAまたは製糖会社までお問い合わせください。



農研機構 北海道農業研究センター

お問い合わせ先

企画管理部情報広報課
TEL 011-857-9260

北農研

検索